

令和4年度 学校経営計画

白山市立広陽小学校
校長 翫 美保

1 経営理念

国際化、情報化の変化の激しい、多様な価値観のある社会で、児童が成長し生きていくためには人と関わり合い、認め合い、共感し合い、時には競い合いながら磨かれていかなければならない。そのためには、柔軟に対応できる力と困難を乗り越えていくたくましさが必要である。そこで、本校では、将来、児童がたくましく生きていくために、基礎基本の力の定着と活用力の育成、やさしく思いやる心の育成、健康と体力づくりに取り組む中で、当たり前なことを当たり前でできるようにしていく。そして、どの子ども大切にしたい、笑顔あふれる学校にしたい。

2 教育目標

知・徳・体の調和のとれた品性ある子の育成
～ 笑顔あふれる学校 ～

3 学校経営目標

(1) 学校の現状

- ①学力にはかなり格差があり、家庭学習の習慣をはじめ基礎基本の力が十分に身につけていない児童もいる。また、全体的に主体的に学ぶ意欲、活用力はまだ十分に身につけていないとはいえず、その指導法を工夫改善していく。
- ②やさしく、素直な児童が多い。反面、心のたくましさ、しなやかさ、粘り強さに課題をもつ児童が目立つ。最後までやり遂げる経験を積ませていくとともに、他者との関わりにおいて自分が大切な存在であることを知り、自信を持てる児童の育成を目指していく。また、いじめや不登校など、児童・保護者への対応が難しい事案があり、各機関と連携し組織として一丸となった対応を行っていく。
- ③児童の体力・運動能力は、県平均を下回る項目が多い。自ら粘り強く運動に向かう意欲を向上させるとともに、運動の機会と質の向上をねらった働きかけをしていく。

(2) 児童に関する目標

- ①進んで伝え合う子
- ②思いやりを形で表す子
- ③しなやかでたくましい子

(3) 教職員・学校組織等の望ましい在り方

- ①児童とともに歩み、明るく活気に満ちた教師（学校）
- ②自己研鑽に努め、専門性・指導力を高め合う教師（学校）
- ③地域や保護者とともに児童をよりよくしていこうとする教師（学校）
- ④法令を遵守し、社会人として信頼される教師（学校）
- ⑤自分に合ったワークライフバランスを目指す教師（学校）

4 今年度の重点目標

(1) 確かな学力の定着

①校内研究の充実

- ・年1回以上の研究授業に取り組み、授業力の向上を目指す。
- ・積極的に外部講師を招聘し、集団解決の指導の在り方を追究する。
- ・学び合う学習集団を育成する。そのために、「しっかり聴くこと」「伝わる声の大きさを最後まで話すこと」「結論・根拠・理由を伝えること」「反応しながら聴くこと」を大切にする。また、解決に至るまでの学びのプロセスを大切にする。
- ・GIGA スクール構想の推進を図る。教科指導等で使い慣れ、効果的な活用方法を見出し、共有していく。
- ・「広陽授業モデル」をもとに、主体的、対話的で深く学ぶ授業を推進する。授業後半を充実させ、学びを

実感する授業実践を目指す。

- ・2か月ごとに重点事項を設定し集中的な取組を実施する。達成度を把握しながら授業の質の向上を目指す。
- ②「学力向上プラン」を基にした授業実践の充実
- ・当該学年で身につけるべき基礎学力の確実な定着を図る。そのために、直しの徹底、個別の支援を着実に実施する。
 - ・活用力の検証問題を実施する。そして、自己課題解決力の育成に向けた授業の改善を図る。
 - ・朝学習の時間の充実を図る。学力課題に即した補充学習を行う。
 - ・家庭学習の習慣化を図る。また、「親子ふれあい読書の日」には児童全員に読書に取り組みさせる。
- ③カリキュラム・マネジメントの推進
- ・カリマネの柱を「伝え合う力」とする。教科横断的指導を意識したカリマネの共通理解・実施を行いながら修正すること、PDCAで評価し改善することで、特色ある効果的なカリキュラムとしていく。

(2) 豊かな心の育成

①全教職員が即応できる体制づくりと適切な対応

- ・児童の問題行動等について校長・教頭・主幹教諭・生徒指導主事・学年主任への報告、連絡、相談を徹底し、迅速な対応にあたる。また、情報を教職員全員が共有し、予防的対応や事後対応にずれが生じないように組織的な取組を図る。

②児童の居場所づくり

- ・「いじめアンケート」、「学校自己評価」、日常の観察を通していじめの早期発見と即時対応を図る。
- ・生徒指導部と道徳教育推進教師が連携し、いじめをしない、させない指導を充実する。
- ・「笑顔あふれる学校づくり」のもと、自慢できる学校づくり、楽しく安心して活動できる学校づくりを目指す。そのために、特別活動のテーマを「笑顔を生み出す特別活動」と位置づけ、児童自らが意識して取り組める体制を整える。
- ・生徒指導の3機能を生かし、児童の居場所づくり、絆づくりを進めるとともに、自己指導力の育成を目指す。

③「み・そ・あ・じ（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）」の環境づくり

- ・人を大切にする具体的な姿を「元気に挨拶する姿」、ものを大切にする具体的な姿を「終わりまで無言ですみずみまで掃除する姿」とし、年間を通した指導に取り組む。
- ・「学習の場に相応しい身だしなみや持ち物」や「廊下歩行」「時間を守る」の指導し、落ち着いて学習できる環境を整える。
- ・教室から離れる前の机・椅子の整頓、ブックの整頓、床・廊下のゴミ拾いが習慣として身につくよう指導する。
- ・2か月ごとの重点事項を設定し、達成度を把握するとともに改善策を実施する。

④思いを形で表す場づくり

- ・地域の人材や身近な素材、具体的な体験的活動を取り入れた道徳授業を工夫し実践する。
- ・児童会行事、委員会活動、たてわり活動、異学年交流、学校行事を通して、「笑顔あふれる学校」を目指す。

(3) 健やかな体の育成

①目標に向かってのびのび運動についての指導

- ・年間を通して目標をもって運動に親しむ機会を設けることで、体力向上を目指す。「スポチャレいしかわ」等の取組を通して、挑戦する厳しさと努力してやり遂げることの楽しさを味わわせる。
- ・体育授業での運動時間の確保を図り、思いっきり体を動かすことの楽しさを味わわせる。
- ・体力テストの結果をもとに、課題となる運動の目標を設定する。課題となった運動について記録に挑戦する取組を実施する。

②養護教諭、栄養教諭と連携した健康教育の推進

- ・「早寝、早起き、朝ごはん」の取組を計画的、継続的に実施する。
- ・「感謝して食べる」、「残食0」の取組を計画的、継続的に実施する。